

J A グループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 6 4 号

【平成 26 年 5 月 7 日 (水) 発行】
発行：J A グループ宮城災害復興本部
編集：J A 宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466
E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

1. TPP「大筋合意」阻止へ「4・21宮城県民集会」
2. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第32次請求
3. 県議会特別委員会で、原発事故に起因する風評被害など損害賠償の現状と課題を報告
4. 手巻き寿司イベントで宮城の農水産物の安全・安心をPR

1. TPP「大筋合意」阻止へ「4・21宮城県民集会」

TPPから食と暮らし・いのちを守るネットワーク宮城とJAグループ宮城は4月21日、仙台市民広場で「TPPから『食と暮らし・いのち』を守る4・21宮城県民集会」を開きました。雨の中、約1,500人が終結し、日米首脳会談で国会決議を反故（ほご）にする「大筋合意」阻止と、震災復興の加速化に向けて徹底した運動を展開する、との決議を採択しました。

生産者、消費者、医療団体などの代表6人がリレートークで次々と怒りの声をあげました。JA仙台青年部副委員長の佐藤光さんは、「日本の農村には互いに助け合う『ゆい』がある。TPPでそういう農村の文化、歴史まで奪われてしまうことは絶対許せない」と訴えました。

参加者は集会後、「国を壊すTPPは認めないぞー」「食の安全と安心を守れー」と、シュプレヒコールを繰り返しながら、仙台市内の中心部をデモ行進しました。

なお、この日は東京で、JA全中が主催する「日米首脳会談を前にTPPに関する国会決議の実現を求める緊急全国要請集会」も開かれ、宮城県からは、JA宮城中央会の佐藤純一常務をはじめ、各JAの専務・常務ら16人が参加。集会前には、国会議員会館を回り、地元選出議員に国会決議の実現を要請しました。



雨の中、デモ行進する集会参加者

国会議員会館を回り、地元選出議員に国会決議の実現を要請しました。

2. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第32次請求

J Aグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は4月22日に総会を開き、東電への第32次請求を3億5,600万円とすることを決め、4月25日に請求しました。内訳は、原木シイタケほだ木の廃棄に伴う損害が1億8,500万円、廃用牛の価格下落等の損害が7,500万円、牧草の利用自粛等に係る損害が4,700万円など。

4月21日現在、同協議会の請求総額は308億5,700万円、受領総額は230億2,100万円で、請求対比74.6%となっています。

3. 県議会特別委員会で、原発事故に起因する風評被害など損害賠償の現状と課題を報告

4月25日に開かれた宮城県議会「大震災復旧・復興対策調査特別委員会」（委員長：畠山和純議員）で、東京電力原発事故に係る農畜産物の風評被害に関する調査への意見聴取が行われました。参考人として、J A宮城中央会の佐藤純一常務が出席し、本県J Aグループの風評被害等損害賠償対策の現状と課題について報告しました。

各委員からは、「なぜ支払いが遅いのか?」「品目によって、全く支払いがないのはどのような理由か」等の質問が相次ぎました。

同特別委員会では、引き続き5月1日には、東京電力の新妻常正常務などを参考人として招致し、4月25日のJ Aグループの報告をもとに、支払い遅延などに関して東電の賠償方針を質しました。

4. 手巻き寿司イベントで宮城の農水産物の安全・安心をPR

第31回しおがま市民まつり（塩釜商工会議所青年部主催）が4月27日、塩釜市のJR本塩釜駅前で開催され、「環境保全米ひとめぼれ」と「みちのく寒流海苔（のり）」、そして新鮮なマグロを使って作る、手巻き寿司イベントが人気を集めました。

このイベントは農林中央金庫と宮城県漁協、J A全農みやぎ、口パールライス宮城が連携して実施したものです。約60杯の手巻き寿司を完成させ、県内J Aと漁協が一体となって、安心・安全な宮城の農水産物をPRしました。

参加者には、「環境保全米ひとめぼれ」と「みちのく寒流海苔」について説明し、パネルを使って、東日本大震災からの復興状況も紹介しました。



人気を集めた手巻き寿司イベント